東京・日本橋～京都・三条大橋

東海道五十三次を往く

創刊15周年記念連載

第43回

石部宿（いしべ）

京都からの旅人が最初に泊まった宿場町

京立ち石部泊まり、という言葉がある。つまり京都から東海道を下る旅人の多くが最初に泊まる宿場がこの石部宿だった。また、伊勢参宮街道との分岐点としても多くの旅人でにぎわっていた。しかし今では当時の遺構や面影はほとんどなく、静かな街道らしい佇まいの町並みが続いている。東の見付跡から歩いてすぐのところに吉姫神社があり、女神を祀っている神社らしく静謐な空間が広がる。石部中央の交差点には、高札場跡、問屋場跡、三大寺本陣跡などの案内板がまとめて立っている。その先に無料休憩所「いしべ宿驛」があり、続いて小島本陣跡の石碑がある。田楽茶屋の前で東海道は直角に右に曲がり、またすぐに左に曲がる。鉤の手と言われる構造だ。一里塚跡を過ぎると、やがて西の見附跡の看板が見えてくる。

目川ノ里(田楽茶屋)

広重の「目川ノ里」は、石部宿と草津宿の間にあった茶店を描いたもの。茶店は今は残っておらず石碑のみが立っている。その代わりに石部宿の中に茶店を再現した「田楽茶屋」が建てられている。今昔対比の写真はこちらを採用した。

街道の食

豆腐とこんにゃくの田楽

広重の絵に描かれた茶店を再現した「田楽茶屋」で、名物の田楽などが食べられる。

石部宿 田楽茶屋

☎ 0748-77-5300
滋賀県湖南市石部西 1-8-19

石部宿周辺　通りには、白漆喰の建物などが立ち、趣のある雰囲気が続く。さらに進むと三大寺本陣跡や高札場跡、問屋場跡がある。 当時は、本陣2軒、旅籠32軒を含む458軒が街道の両脇約1.6kmに渡り立ち並んでいたという。

吉姫神社から西福寺まで、旧街道らしい細い道のりが続く。

小島本陣跡

慶安3(1650)年に創建され、数多くの大名や明治天皇なども宿泊した。

昔のままと思われる細い街道が続き、素朴な街並みを見ることができる。

街道の土産

石部太鼓

石部宿にある老舗の和菓子屋で売られている。地元の伝統芸能「石部太鼓」にちなんだ最中。

御菓子司 谷口長栄堂

☎ 0748-77-2101
滋賀県湖南市石部西 1-8-13

「写真でたどる、現代の東海道五十三次を往く」

上・下巻好評発売中！

人気連載「東海道五十三次を往く」を書籍化。定価は上・下巻各1,650円(税込)。お求めは全国の書店、ネット通販などから。